

ニュースレター

Vol.7



■ 発刊にあたって

高知県合同輸血療法委員会は、県内6つの主要医療機関、高知県医師会、高知県赤十字血液センター、高知県によって開催され、県内の血液製剤の需給状況や使用状況を分析・評価・情報共有し血液製剤の適正使用の推進を図ることを目的としています。

より多くの医療機関の皆様へ、県内の血液製剤使用状況等を知っていただき、適正使用を推進するため、「高知県合同輸血療法委員会ニュースレター Vol.7」を発刊することとなりました。皆様方には、引き続き血液製剤の適正使用にご協力をお願いいたします。

■ 内容

1.令和7年度高知県合同輸血療法委員会 開催報告	1
2.高知県における血液製剤供給量について	2
3.令和5年度血液製剤使用実態調査報告について	2
4.輸血に係る過誤・インシデントについて(2024年発生事例)	3
5.高知県輸血・細胞治療研究会からの案内	4

1.令和7年度高知県合同輸血療法委員会 開催報告

〈日 時〉 令和7年9月11日(木) 18:30~20:00 (ZOOMウェビナーによるWeb開催)

〈出席〉 委員8名(委員代理含む)、オブザーバー3名

- 〈議事内容〉
- 1 廃棄血・血液製剤の使用状況について
 - 2 血液製剤の院内備蓄量について
 - 3 高知県における令和5年度血液製剤使用実態等について
 - 4 ニュースレターについて
 - 5 その他

〈協議概要〉

・廃棄血・血液製剤の使用状況等について

各委員より自院での血液製剤の使用状況(使用量・廃棄量・廃棄率)や経年推移、その背景について報告があった。各医療機関では患者状態等を総合的に判断することで血液製剤の適正使用を行っており、赤血球製剤の有効期間の延長により院内備蓄量を増やすよう見直した等の説明があった。

・高知県における令和5年度血液製剤使用実態等について

高知県輸血・細胞治療研究会より「高知県における令和5年度血液製剤使用実態等」についての報告があった。(詳細はP2「令和5年度血液製剤使用実態調査について」のとおり)

・その他

事務局より、「災害時の輸血用血液の供給体制」及び「各医療機関における学会認定・臨床輸血看護師の取り組み状況調査」について報告を行うとともに、高知県輸血・細胞治療研究会から「輸血に係る過誤・インシデント報告」について情報提供いただいた。

2.高知県における血液製剤供給量

①人口1,000人当たりの血液製剤供給数

○中国・四国管内（令和6年度）

赤血球製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
8	山口	59.5
12	高知	58.0
15	徳島	57.5
20	鳥取	53.0
21	香川	52.9
24	広島	52.4
25	愛媛	52.3
-	全国平均	52.0
29	岡山	49.3
46	島根	36.4

血漿製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
12	高知	17.9
-	全国平均	16.9
17	鳥取	16.6
24	山口	15.8
26	岡山	15.3
31	徳島	13.7
37	香川	12.9
38	愛媛	12.8
39	島根	12.4
45	広島	11.3

血小板製剤（単位）		
順位	都道府県	供給数
3	広島	97.0
7	徳島	85.2
10	鳥取	75.9
11	高知	75.5
16	岡山	71.5
-	全国平均	70.0
30	愛媛	61.2
38	島根	54.4
40	山口	54.0
44	香川	52.2

○高知県の特徴

- ・人口当たりの各製剤の供給量は、いずれも全国平均を上回る位置で推移している。また、中国・四国管内で上位に位置している。
- ・その要因として、高齢化率・人口当たりの病院数・機能別病床数・地域特性などが複合的に影響していることが推察される。

3.令和5年度血液製剤使用実態調査について

本調査は、各医療機関における輸血管理体制の整備、および血液製剤の使用状況や適正使用の促進状況などを正確に把握することを目的として毎年、全国で実施されている調査です。

この度、令和5年度の調査結果※から、「不規則抗体検査」について一部の医療機関において、不規則抗体検査を省略し、直接クロスマッチ試験を実施することで、輸血不適合事例が発生した事案が報告されております。

不規則抗体検査については「輸血療法の実施に関する指針」により下記のとおり実施することが重要ですので、本検査の目的を踏まえ、適切な対応をお願いします。

【不規則抗体検査の目的】

- ・不適合輸血の防止：不規則抗体による重篤な溶血性副作用を防ぎ、患者の安全を最優先すること。
- ・検査の信頼性向上：県内の医療機関における検査手順を標準化し、輸血医療の質（ボトムアップ）を向上させること。

※溶血性副作用は、主に輸血された赤血球の膜が破壊されて起こる。溶血して赤血球の内容物が放出され、補体活性の上昇などにより連鎖的に溶血が進み、死に至る場合もある。

【不規則抗体検査の方法】

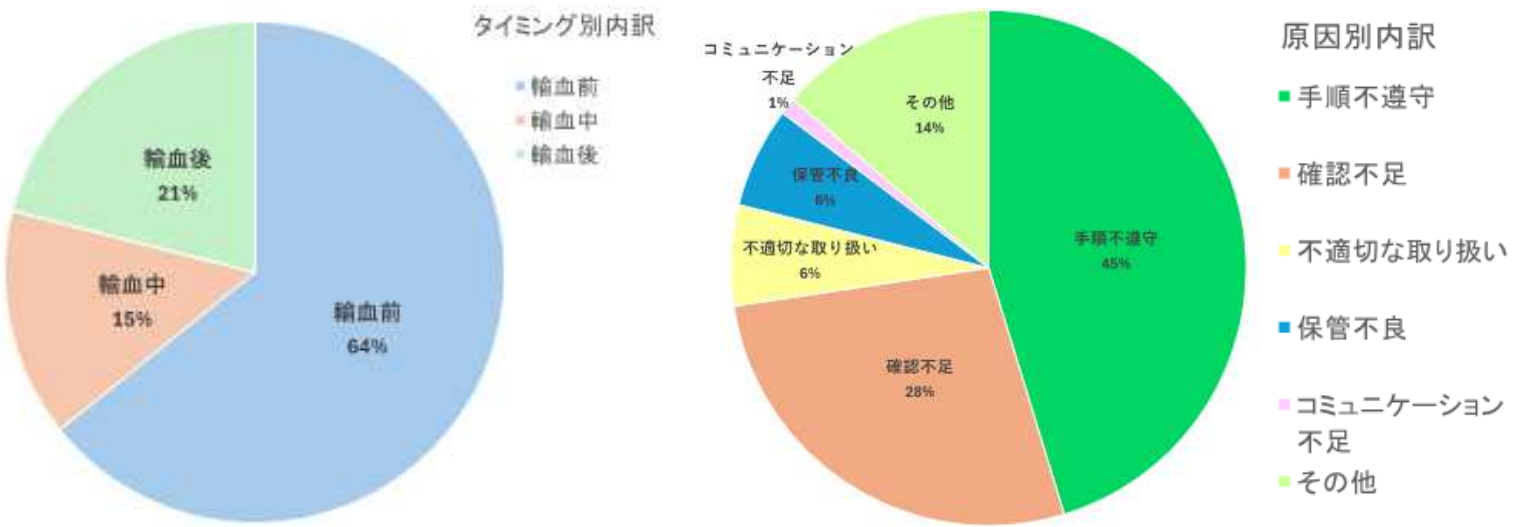
- ・間接抗グロブリン試験を含む不規則抗体のスクリーニングを行う。不規則抗体が検出された場合には、同定試験を行う。
- ・なお、37℃で反応する臨床的に意義のある（副作用をおこす可能性のある）不規則抗体が検出された場合には、患者にその旨を記載したカードを常時携帯させることが望ましい。

※「厚労省の事業である血液製剤使用適正化方策調査研究事業で得た成果を使用しています」

4.輸血に係る過誤・インシデントについて（2024年発生事例）

資料作成：高知県輸血・細胞治療研究会

< 県内17施設から報告された事例 = 95件 >



解説
 過誤・インシデント発生のタイミング別では、輸血前(61件)が全体の64%を占め、未然に防ぐことができた事例も多く含まれます。また、原因別では、手順不遵守(43件)・確認不足(26件)で全体の73%を占めており、ダブルチェックやマニュアル等の遵守が重要であることがわかります。

< 事例概要（上位3例） >

発生順位	件数	事例概要
1	19件	輸血の(PDA)認証ができていなかった。
2	11件	記載・転記間違い
3	5件	輸血予定の血液製剤が投与できていなかった。

解説
 手順上、輸血前後でシステムを介する場合の認証抜けが多く挙がっています。上記事例は、2023年でも上位を占めた事例であり、施設ごとの対策が必要と考えられます。

< 注意すべき内容 >

医師	<input type="checkbox"/> オーダーミス <input type="checkbox"/> 同意書取得 <input type="checkbox"/> 緊急時の血液採取
検査技師	<input type="checkbox"/> 検査結果の入力・確認 <input type="checkbox"/> 保管機器管理 <input type="checkbox"/> 製剤の払い出し <input type="checkbox"/> FFP融解・破損
看護師	<input type="checkbox"/> 輸血指示の確認 <input type="checkbox"/> 患者検体の採取 <input type="checkbox"/> 製剤の保管管理 <input type="checkbox"/> 製剤の取り扱い <input type="checkbox"/> 輸血セットの装着 <input type="checkbox"/> 輸血時の認証

令和7年度 高知県輸血・細胞治療研究会

「安全な輸血ってなんだろう？」

教育講演 座長：西内 律雄 先生（高知医療センター）

「岡山での学びを高知へ

～岡山大学病院における診療経験と今後の展望～」

演者：北村 亘 先生（高知医療センター 血液内科）

シンポジウム 座長：溝渕 樹 先生（高知赤十字病院）

「看護局での輸血に関するインシデント分析」

演者：岩戸 翠 先生（高知医療センター 看護局）

「副反応への適切な対応に向けて」

演者：福留 智仁 先生（高知赤十字病院 看護部）

「高知県の輸血検査体制の実態把握と

安全な輸血医療の提供を目的としたアンケート調査」

演者：石本 倫子 先生（高知医療センター 医療技術局）

特別講演 座長：藤原 晴美 先生（高知大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部）

「採血から輸血までの一連の業務について

ガイドラインを知ろう！（仮）」

演者：奥田 誠 先生（日本赤十字社血液事業本部技術部）

日時：令和7年12月6日（土）

13:00～17:15（受付12:30より）

場所：高知医療センター くろしおホール

開催方法：現地+Web（ハイブリッド開催）

参加費：1,000円（学生無料）

【申込ページ】



<https://forms.office.com/r/KEqVvsRj6i>

主催：高知県輸血・細胞治療研究会

後援：一般社団法人高知県臨床検査技師会

事務局：高知県赤十字血液センター内（TEL:088-866-6662）